

看護専門科目	臨床応用看護学					
看護学科	必修	2単位	演習	平成30年度	前期	3年次
科目名	母性看護学実践論Ⅱ（周産期の看護） Women and Newborn Nursing II (Perinatal Nursing)					
担当教員	◎江南宣子 田村博美 塚田桃代 金本巨万 中村喜代美					
目的	周産期における母児の健康問題を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における看護と実践のための看護技術を学ぶ。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩期・産褥期・新生児期の正常と起こりやすい異常を理解する。</li> <li>2. 妊娠・分娩が母児に与える影響と看護を理解する。</li> <li>3. 母児の健康診査と援助技術を理解する。</li> <li>4. 産褥期の母子の健康状態をアセスメントすることができ、看護実践に繋げることができる。</li> </ol>					
他科目との関連	主に体の仕組みと疾病の成り立ち、小児看護学					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験				0.8
	レポート	課題レポート・演習ノート				0.1
	その他	演習技術				0.1
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本（メディカ出版） ナーシンググラフィカ母性看護技術（メディカ出版） ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程（医歯薬出版株式会社） 母性看護実習プレブック（医歯薬出版株式会社）					
参考資料	母性看護学各論（医学書院）、その他適宜配布					
備考 (受講上注意、事前学習等)	周産期の産褥期、新生児期の看護は、母性実習においては受持ち対象となることが多いため、テキストの予習・復習を積極的に行い専門用語の理解をしておくこと。また、技術演習やグループ活動が多くなるため体調を整えて欠席とにならないようにする。特に、沐浴技術においては、技術テストを採用するため各自の練習を積んで臨むようにする。技術演習時における欠席は原則的に認めない、または、そのための課題を求めることがある。					